

聖化

2005.7.20

日本聖化交友会機関誌

No. 38



札幌聖化大会の現状と展望

単立札幌めぐみキリスト教会牧師
札幌聖化大会委員会事務局長 高橋養一

「神に賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」(使徒二・四七)

札幌聖化大会は、今年、第十七回目を迎えました。

一 現状

今年の大会は講師にインマヌエル綜合伝道団中目黒教会牧師・竿代照夫先生をお迎えして、五月十七・十八日、札幌のクリスチャンセンターにおいて開催されました。例年より春の到来が遅れ、日中も肌寒い二日間でしたが、セミナーから始められた聖会はいずれも満席の盛況でした。竿代先生は、セミナーにおいては、「聖化と宣教」と題して、また、聖会ではガラテヤ書から「律法主義からの釈放」(二・一五―二二)、「罪の性質からの釈放」(五・一六―二六)、

「世俗主義からの釈放」(六・一一―

一六)と題して、きよめの恵みをお

語りくださり、出席者は聖化の信仰

と恵みに、新しく引き上げられまし

た。聖会では毎回教職と信徒の証し

人が立てられ、感動的な証をしてい

ただきました。又今回は新たに、独

唱と、二組の青少年グループによる

特別賛美のプログラムが加えられ、

新風を感じさせられました(出席者

は平均百三十名)。

大会のもうひとつの恵みは、道内

各地から御参加くださった教職と御

家族をお招きしての歓迎愛餐会(ウ

エルカム・テーブル)です。今回は

時間的にも余裕を持たせて、幸いな

交わりの時となりました(三二名)。

二 展望

札幌聖化大会委員会の今後の展望としては次の課題を挙げることが出

来ると思います。

①聖化の教理と恵みの継続的な宣証。

②同信の友との交わりの拡大充実。

③聖化の信仰の次世代への継承。

この課題の実現のために、現在行

われている次の三つの活動を守り続

けることが、目下の委員会の責任と

いえるでしょう。

①聖化大会の開催、②委員会の開催

③会報「ハギオス」の発行

特にハギオスは、メッセージや証

の他に、北海道におけるきよめ派諸

教会の歴史、教理の解説、信仰相談

など少しでも読者に聖化の恵みの理

解を深めていただくための工夫がな

されて、好評です。

聖化大会を中心とした聖化の恵み

と信仰の交わりの深化が、聖霊の大

いなる御業へと続くことを確信する者です。

メッセージ概要(於淀橋教会)

聖会Ⅰ『キリストの心に渴く』(マルコ8・27-34)

ウィリアム・ユーリー博士

今晚お話しするテーマは「キリストの心を持っていない私たち」ということです。マルコの福音書を学べば学ぶほど、なぜ私たちが聖霊に満たされなければならぬかが分かります。ペテロは人類史上注目すべき告白をしましたが(マコ8・29)、そのすぐ後でイエス様に叱責されました。それは彼が神への思い、視点を持っていなかったからです。頭で理解している事と心の状態とが異なっていたのです。今晚私たちは正直になるべきです。多くのクリスチャンが頭と心の状態の矛盾に甘んじながら生きています。私たちは時としてそのような自分が他の人々に対して福音のつまずきとなっていることに気付かなくてはなりません。それでは私たちがキリストの心を持っていないと、どのようなことが起こるでしょうか。

第二には、霊的な力を失います。キリストの心なくして、キリストの力をクリスチャンたちの間にキリストの心を持ち、キリストの力を表わすことにあきらめと妥協があることを感じます。クリスチャンたちをそのようにするために彼らを創造し、贖ったのに、教会はいっぴつになつたらわたしの心を取り戻すのかと仰つておられます。

第三に、互いに愛する愛を失います。キリストの思いを失う時、私たちは働きの力を失い、それが続くと、教会に争いが起こります。最も身近な人々を愛せないなら、外の人々をも愛することはできません。しかし私たちは唯一の敵はサタンであり、すべての人は宣教の対象なのです。

まず第一に、主に耳を傾ける事ができません。9章には主の御姿が変わる出来事が記されていますが、ペテロはとつさに訳のわからないことを口にします。しかし主は「黙つてわたしの言うことを聞きなさい」ということを語られました。私たちは自分のことで頭がいっぱいで主に聞くことができなくなってしまうのです。しかし励まされ

る事は、そのようなペテロをも主はあえて伴つて山に登り、取り扱つてくださったのです。第二には、霊的な力を失います。キリストの心なくして、キリストの力をクリスチャンたちの間にキリストの心を持ち、キリストの力を表わすことにあきらめと妥協があることを感じます。クリスチャンたちをそのようにするた

そして最後に、これまでの中で最悪の事なのですが、主を正しく愛することができなくなります。四福音書の最後の方に出てきますが、弟子たちのあ

会における

第19回聖化大会教勢・財勢表

教勢

財勢

年月日	集會名	集會人数(名)	集會名	席上献金	予約献金	合計
10月17日(日)	プレイズ&トーク	178	聖会Ⅰ	282,706	430,000	712,706
10月18日(月)	セミナー	247	聖会Ⅱ	495,374	808,000	1,303,374
	レセプション	46	講演	180,106	467,000	647,106
	講演	240	女性大会	320,150	433,500	753,650
	神学生交歓会	116	青年大会	82,141	-	82,141
	聖会Ⅰ	357	その他	6,707	33,000	39,707
10月19日(火)	女性大会	335	合計	1,367,184	2,171,500	3,538,684
	学びを深める時	275				
	聖会Ⅱ	375				

アンダーソン博士です。博士は一大学でM.Phil.、次いで同大学でが、最近の関心は古代の教父たち

に就かれる以前、1980年代にはベ

士も証詞しておられますが、「人々

(文責・長井主恩)

聖会Ⅱ 『キリストの心に生きる』(John 3:8, 14)

ウィリアム・ユーリー博士

昨晚、イエス様はペテロに「あなた
は神の思いを持っていない」と語られ
ましたが、パウロは2章5節で、その
神の(キリストの)思いについて述べ
ています。キリストの思いなくしてキ
リストのようになることはできません。

一つ目は、自己中心(3節)です。
これはいつも一つの目的を持っていま
す。すなわち、どうしたら自分が得す
るのであるかということです。私も10
代の頃に、集会に誘う母に「集会に出
て何の得があるのか」と反論した事
があります。しかしその時に母の対応が

聖霊によって私を取り扱ってください
たのです。
三つ目は、つぶやき(14節)です。
ギリシャ語では雰囲気的確に表わし
て「ゴゴスモス」といいます。つぶや
きほどコントロールしにくいものはあ
りません。つぶやいている時、私たち
は自分で自分のことを握ってしまっ
ているのです。もし主がこの地上生涯で
たった一度でもつぶやかれたのなら、
救い主はおられなかったでしょう。

多くのクリスチャンはキリストの心を持
持つことは不可能であると考えていま
す。しかし経験豊富で、熱心な神学者
であったパウロにとってはそうではあ
りませんでした。本書は獄中から書か
れた手紙でしたが、パウロは喜びに満
ちていました。それは彼が地平線を見
るときにはキリストが満ちているから
です。どのようなキリストでしょうか。
(1)神の御姿としてのキリストであり
(6節)、(2)高くあげられ、すべての
名に優る名を与えられたキリストだっ
たのです(9節)。しかしそのような

二つ目は虚栄心(3節)です。この
ことばのギリシャ語は「虚しい」と「栄
光」という二つの言葉から成っていま
す。パウロはもしクリスチャンであり
ながら十字架の価値観を持って生きて
いないなら、中身の無いレンゲパイ(ア
メリカ南部で売られているパイ)のよ
うに虚しいと述べています。ある時主
は、私自身がハムスターとなっていて、
誰からも指図されながらいない者である
ことを示してくださいました。そして

四つ目は、疑い(14節)です。それ
は論ずることです。もしキリストの心
を持っていない時、私たちは「はい。
しかし」と、主と論じようとしませ
う。パウロはそのようなことを避けるよ
うに述べています。主はすべてを手放し
て私たちのところに来て下さり、私た
ちもそのようにすることができると
語っておられます。私自身、伝道者と
しての召命になかなか素直に応じよう
としていませんでしたが、ある書物の
表題を通して、主は私にただ「はい」
とだけ言うように導いてくださいまし
た。私たちがイエス様に無条件の「は
い」を申し上げる時、主は真に自由な
生涯へと私たちを導いてくださるので
す。

お方がご自分を無にされた(7節)と
はどのようなことでしょうか。それは
何事にも固執されなかったということ
です。ある黒人説教者は、キリストが
十字架で足を釘付けにされたのはキリ
ストが神様から離れようとされない為
に、手を釘で打ちつけられたのは神様の御
前に何物をも握る事のない為であると
語りました。そしてパウロはそのよう
なキリストの心を私たち一人一人も持

たことばのギリシャ語は「虚しい」と「栄
光」という二つの言葉から成っていま
す。パウロはもしクリスチャンであり
ながら十字架の価値観を持って生きて
いないなら、中身の無いレンゲパイ(ア
メリカ南部で売られているパイ)のよ
うに虚しいと述べています。ある時主
は、私自身がハムスターとなっていて、
誰からも指図されながらいない者である
ことを示してくださいました。そして

私自身、伝道者と
しての召命になかなか素直に応じよう
としていませんでしたが、ある書物の
表題を通して、主は私にただ「はい」
とだけ言うように導いてくださいまし
た。私たちがイエス様に無条件の「は
い」を申し上げる時、主は真に自由な
生涯へと私たちを導いてくださるので
す。

(文責・長井主恩)

本年・2005年 東京、東海、大阪、九州の各 主講師 ニール・アンダーソン博士プロフィール

今回、東京、東海、大阪、九州の各地区での聖会主講師はアズベリー大学助教授のニール・アンダーソン博士です。1988年にアズベリー大学でB.A.、1991年にアズベリー神学大学院でM.Div.、1994年に1999年にPh.D.を取得された気鋭の学者です。特に組織神学、歴史神学に造詣の深い器のクリスト教神学等にも向けられています。

博士は学者であると共に、霊的な牧会者、説教者としても知られています。専門的なシカゴにあるフリー・メソジスト教団の小さな教会で牧師として奉仕されました。に何かを教えよう、与えようと思気込んで出かけましたが、かえって人々から多くのものを学びました。神に全く信頼することや隣人を愛することの意味も深く教えられ人々の心に深く届く奉仕をしておられる博士の来日は、今から待ち遠しく思います。予定です。



地域だより

栃木聖化交友会

栃木聖化大会報告

栃木聖化交友会のためにお祈りとお心配りをいただいてお祈りすることを心から御礼申し上げます。一同、親しい交わりと働き、研鑽を重ねてまいりました。

毎年一回大会を開催しておりますが、今年は第9回目の大会を5月15日に開催しました。次に項目的に報告いたします。

▼第9回栃木聖化大会の主要プログラム

- ・日時 5月15日(ペンテコステ聖日)午後3～5時
- ・会場 兄弟団真岡教会(合田徹師)

- ・司会 杉本俊二師(ホーリネス栃木教会)
- ・きよめの証し 山田隆師(インマヌエル宇都宮教会)
- ・連合聖歌隊賛美

・独奏 加藤順子姉(兄弟団宇都宮教会、市川越男師)

▼講師 ホーリネス足利教会、下山典子師(康登志師は健康ややご不調です。)

・聖書 ヨハネ9・11。エゼキエル36・25～27節。

・説教題「クリスチャン生涯を支えるもの」

クリスチャンはきよめられて石の心が除かれ、主によって目も開かれて万事、イエス様のお扱いを信じ従うことである。

・出席者(記名者) 55名

・席上献金 五万五千七百六十五円

(予算五万円)

▼しゅっくりとした聖霊のご臨在を感じ、互いの恵みの交歓の時でした。

▼会場を各教会の持ち回りにして、各委員が講師になり、

昨年の水戸の大畠之成先生の場合を除き、これまで5名が御用をいたしました。これにもまた恵みと学ぶところがありました。来年は、講師を「外」からお招きする方針を5月30日の感謝反省会で決めました。

▼ウエスレアン・ホーリネス塩谷教会の河野博好伝道師を、今年委員としてお迎えできたことは一同の喜びです。

▼真岡教会の橋本梅子先生は95歳になられました。お体は以前のようにありませんが、かくしゃくとしておられ、当会の霊的なバックボーンになってくださっております。

▼各地の交友会には励ましを頂いております。

以上、ご報告まで

(栃木聖化交友会会長 山田隆)

日本聖化交友会の紹介

さる3月の全国評議員会で、改めて日本聖化交友会とは何か。その働き、或いは役員会の開催等はどうなっているのか等の検討、意見交換の時が持たれました。この機関誌上に日本聖化交友会規則に記されていることを若干記し、紹介とします。

日本聖化交友会は、同規則第3条にあるように「聖書的な聖化の信仰の宣証、究明、普及を目指す全国各地の同志、「地域別聖化交友会および、その目的と信仰主張を同じくする者等」の連絡中枢として、交わりと協力を推進することを目的とする」ものです。

換言すると、全国を束ねて指導する等の中央組織(或いは中央集権的)では全くなく、全国各地に聖化の活動が拡大するために助けとなるべく連絡・協力する機関です。ですから、あくまでも主体は各地域であり、各地域の働き(その発足)において、それぞれの特色を生かして頂くべく、お手伝いする機関との位置付けです。今後の働きの方向性をどうするか、議論が深められていくことでしょう。

現在は、その情報交換等のために機関誌「聖化」を年2回、日本聖化交友会の下で発行しています。会計は同規則第10条にあるように「会員の納付金と献金」で充当されています。尚、現在の会長は岸田馨師(シオン・キリスト教団)です。細かい規則等の情報が必要の方は事務局まで、お問い合わせ下さい。

編集後記

▼第38号をお届けします。今秋大会に向けての準備に祝福がありますようお祈り致します。(係)